

諸種藥物の結核菌呼吸に及ぼす影響

〔第5編〕 組織液による差違

〔本研究に関しては京都市衛生部より「ストレプトマイシン」の提供を受けた。記して謝意を表す。（内藤益一）〕

瀧 長 次

既報の実験方法により、「メヂウム」を組織液として実験した。組織液は家兎の脳、肺、肝、脾、腎、心、筋を海砂と共に磨細し、食塩水で重量の5倍とし、(脾のみは10倍)、24時間放置後「ザイツ」濾過板で濾過し、この組織液、血清（5倍に稀釈せるもの）、及び食塩水を夫々1c.c.に菌液1c.c. (30 mg) づゝを加へ、各々に同一濃度の藥物を添加して其の影響を検した。対照として食塩水の菌液を使用した。

被験藥物は P A S. Na, Rhodinsaures Na, Promin, Chlorcyclohexylresorsin, Streptomycin, Usninsaures Na, O-Aminophenol の7種にして、其の濃度は、第1編の実験結果より適當に選んだ。

対照実験としての藥物を加へない場合に於ては、各組織液及血清間には著明な差はなく、何れも食塩水の場合より酸素消費減少度が約10%程度強い。

PAS. (2000倍) を加へた場合に於ては、各組織液及血清間には著明な差違になく、対照実験同様食塩水の場合より減少度が強い。但し血清に於ては減少度が始めは対照より少いが、次第に増加して24時間後には各組織液程度となる。

Rhodinsäure (400倍) に於ては、血清がやゝ減少度が少い程度で、其他には大差なし。

Promin (500倍) に於ては、食塩水が組織液、血清の場合よりやゝ減少度が強く其他大差なし。

Chlorcyclohexylresorsin (8000倍) に於ては、藥物添加後、直に食塩水、組織液共同一程度の著明な減少を示すが、血清のみ対照よりやゝ減少する程度である。

Streptomycin (1000倍) は各組織液、血清共に食塩水の場合よりも強く減少する。

Usninsäure (8000倍) は Promin 同様、食塩水の場合が最も減少度が強く、組織液は何れも食塩水よりやゝ劣る。但しこの場合も血清は始め減少度少く対照以上であるが、時間の経過と共に次第に強くなり、24時間後には最も減少する。

O-Aminophenol (600倍) は食塩水、組織液、血清共に藥物を加へた直後より酸素消費増加し、食塩水に於て最も著しい。其後は次第に減少するが、組織液に於ては約2.5時間後、血清に於ては約4時間後に対照程度に減少す。食塩水に於ては、5時間後も尙増加してゐる。24時間後には食塩水が対照より若干減少し、次に血清、組織液の順で減少度が強くなつてゐる。

以上の如く組織液を「メヂウム」とする場合には、各組織液間に著明な差は認められなかつたが、血清を「メヂウム」とする場合には其の経過に若干異違のあるものがあり、又藥物によつては食塩水の場合に最も強く影響のあることが認められた。